

三重県内企業の最低賃金と採用時の最低時給に関する実態調査（2024 年 9 月）

採用時の最低時給は 1,085 円 人材確保を背景に最低賃金より 62 円高く

～「三重県」全国では 24 番目、業界格差も目立つ～

毎年 10 月に改定される最低賃金。2024 年の全国加重平均は、2023 年より 51 円高い 1,055 円となった。これを受け、三重県の最低賃金は 1,023 円に上昇した。

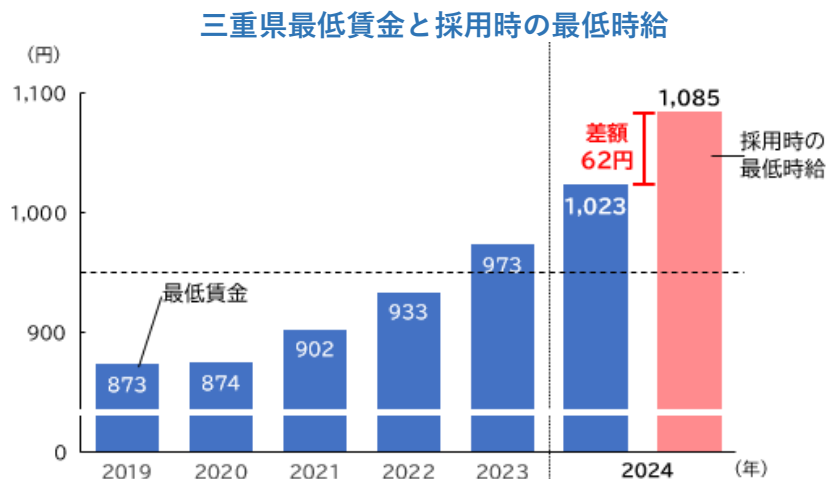
目標としていた全国加重平均 1,000 円を 2023 年に達成した政府は、次なる目標として 2030 年代半ばまでに 1,500 円を目指すことを「経済財政運営と改革の基本方針 2024」（骨太の方針 2024）で示している。また、先の衆議院選挙 2024 で各政党が 2020 年代に 1,500 円に引き上げることを選挙公約として掲げていた。しかし、継続的な賃金の引き上げは、労働者の収入増加による消費の活性化などが期待される一方で、企業側からみると人件費上昇による収益の悪化などが懸念されている。

そこで、帝国データバンク四日市支店は、最低賃金改定に対する三重県内企業の見解について調査を実施した。本調査は、TDB 景気動向調査 2024 年 9 月調査とともに行った。

※ 採用時最低時給（平均値）は、小数点第 1 位を四捨五入している（日給、週給、月給の場合、時給に換算）

※ 調査期間は 2024 年 9 月 13 日～30 日、調査対象は三重県：323 社で、有効回答企業数は 122 社（回答率 37.8%）

全国：対象 2 万 7,093 社で、有効回答企業数は 1 万 1,188 社（回答率 41.3%）



調査結果（要旨）

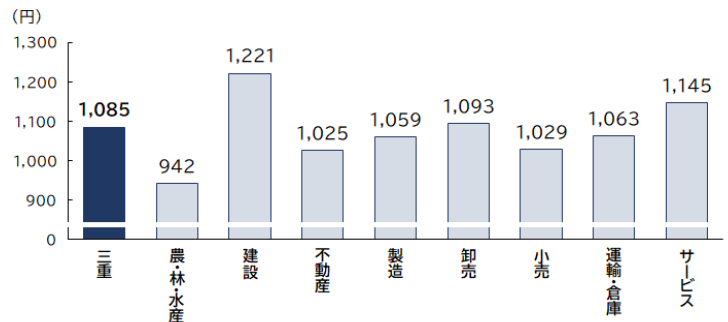
1. 従業員採用時の最低時給は平均 1,085 円、2024 年改定の最低賃金を 63 円上回る
2. 業界別では、『建設』が 1,221 円でトップ、業界間で格差
3. 都道府県別 三重県は 24 番目

1. 従業員採用時の最も低い時給は平均 1,085 円、最低賃金時間額を 62 円上回る

正社員、非正規社員を問わず、従業員を採用するときの最も低い時給を尋ねたところ、三重県内企業の平均は 1,085 円となり、改定後の最低賃金 1,023 円を 62 円上回った。なお、全国平均は 1,167 円で三重県はこれを 82 円下回った。

業界別では、『建設』(1,221 円) がトップとなった。以下、『サービス』(1,145 円)、『卸売』(1,093 円) が続き、3 業界で平均を上回った。一方、『農林水産』は 942 円で 2024 年の最低賃金 1,023 円を下回る水準にとどまり、このほか『不動産』(1,025 円)、『小売』(1,029 円) はこれに迫っており、業界間で差が大きいことが分かる。

採用時の最低時給～業界別～



規模別では、大企業は 1,089 円、中小企業 1,084 円、うち小規模企業 1,083 円となっている。

2. 都道府県別「三重県」は 24 番目

正社員、非正規社員を問わず、採用時の最低時給を都道府県別で比較すると、最も高かったのは「東京」の 1,340 円で、全国で唯一

1,300 円を超えた。以下、「神奈川県」(1,277 円)、「大阪」(1,269 円)、「愛知」(1,208 円)、「埼玉」(1,205 円)、「千葉」(1,202 円) の 5 府県が 1,200 円台となった。

三重県 (1,085 円) は都道府県別で 24 番目となった。

一方、「青森」(984 円)、「秋田」(990 円)、「鹿児島」(991 円) の 3 県は最低時給の平均が 1,000 円を下回った。特に、「青森」は改定された最低賃金と採用時の平均時給の差額が最小で、「秋田」「鹿児島」も +30 円台の差額にとどまっている。

最低賃金と採用時の最低時給～都道府県別～

都道府県	2024年度最低賃金時間額	採用時最低時給(平均値)	差額
北海道	1,010	1,116	106
青森	953	984	31
岩手	952	1,032	80
宮城	973	1,066	93
秋田	951	990	39
山形	955	1,025	70
福島	955	1,040	85
茨城	1,005	1,100	95
栃木	1,004	1,093	89
群馬	985	1,115	130
埼玉	1,078	1,205	127
千葉	1,076	1,202	126
東京	1,163	1,340	177
神奈川	1,162	1,277	115
新潟	985	1,055	70
富山	998	1,146	148
石川	984	1,071	87
福井	984	1,077	93
山梨	988	1,058	70
長野	998	1,079	81
岐阜	1,001	1,153	152
静岡	1,034	1,138	104
愛知	1,077	1,208	131
三重	1,023	1,085	62

都道府県	2024年度最低賃金時間額	採用時最低時給(平均値)	差額
滋賀	1,017	1,080	63
京都	1,058	1,153	95
大阪	1,114	1,269	155
兵庫	1,052	1,160	108
奈良	986	1,088	102
和歌山	980	1,054	74
鳥取	957	1,000	43
島根	962	1,048	86
岡山	982	1,111	129
広島	1,020	1,108	88
山口	979	1,090	111
徳島	980	1,013	33
香川	970	1,051	81
愛媛	956	1,030	74
高知	952	1,047	95
福岡	992	1,131	139
佐賀	956	1,062	106
長崎	953	1,036	83
熊本	952	1,069	117
大分	954	1,076	122
宮崎	952	1,017	65
鹿児島	953	991	38
沖縄	952	1,045	93
全体	1,055	1,167	112

注1: 2024年度最低賃金時間額は、「地域別最低賃金の全国一覧」(厚生労働省ホームページ)

注2: 採用時最低時給(平均値)は、小数点第1位を四捨五入したもの

注3: 集計可能な企業を対象に算出

注4: 青色の網掛けは「全国」を除く値が大きい上位3都道府県、赤色の網掛けは下位3都道府県を示す

〈参考〉三重県内企業からのコメント

- ・都道府県ごとに変化があるため、まだ救われていると感じるが、業界の収益性から考えると、非常に厳しい状況。また、社会保険含めて、労働者に対する手厚い法律が厳しさを増しており、倒産する中小企業は今後増えると思う (スーパー・ストア)
- ・最低賃金を下回ってしまった。今年の新入社員の給与を期の途中で賃上げすることになり、困っている。労働日数を増やして年間休日を増やせばクリアーになるが、働くことなく、給与をあげなくてはならないこの国は、どんどん右肩下がりが懸念される (自動車販売)
- ・賃上げの必要性については理解できるが、最低賃金に関しては去年・今年と上がり幅が大きすぎて厳しい。業績が上向いている企業であれば対応は可能だが、そうでない中小企業にとっては負担が大きすぎる (化粧品卸売)
- ・社会、企業成長を追い越しすぎ。スピード違反である。が、社員の給料が上がるのは悪いことではない (繊維製品製造)
- ・103 万、130 万の壁をそのままに最低賃金だけ変えてもひどくなる一方。また、社会保険料を企業に負担させるのもおかしい (文房具小売)
- ・日本社会全体の為に最低賃金はもっと上げるべき (ぶどう糖など糖類製造)

まとめ

本調査の結果、三重県内企業の従業員を採用するときの最低時給の平均は 1,085 円となり、2024 年改定後の最低賃金の 1,023 円を 62 円上回った。人手不足により採用競争が激化する中、最低賃金での募集では継続的な従業員の確保が難しいため、最低賃金を上回る金額に引き上げざるを得ない企業が多いと考えられるが、業界間では格差が表れている。他県に目を向ければ物価の違いなどにより、地域間での格差も顕著に表れ、2024 年度の最低賃金時間額と採用時の最低時給との間に乖離が生じている。

物価上昇が続く状況下、「従業員の給料を上げることで消費を促す必要がある」といった声がある一方、「130 万円の壁を超えないようにするため、労働時間を抑える従業員が増え、人手不足が加速する」という声も多数聞かれる。

政府は、最低賃金の引き上げを続けるだけでなく、人手不足や価格転嫁への対応、社会保障制度の改定など、企業の経営状況がひっ迫しないよう政策を打ち出していく必要が急がれる。

資料のお問い合わせ先

株式会社帝国データバンク 四日市支店

担当：服部 TEL 059-353-3411 FAX 059-353-4109

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。